

# 2年2組 算数科学習指導案

平成30年10月23日(火) 13:05~  
 場所: 2年2組教室  
 授業者: 岡田 尚樹

- (1) ねらい 身の回りの事象からかけ算の式になるものを探す活動を通して、同じ数ずつのまとまりがいくつもあることに気付き、かけ算の式に表すことができる。
- (2) 評価規準 同じ数ずつのまとまりに着目して、図に書き込みながらものの個数を乗法の式に表すことができる。【学術的な考え方】
- (3) 評価方法 評価問題において、「1つ分の大きさ」と「いくつ分」を理解できているかを図に書き込み、立式しているか見届ける。

## 1 単元名 『新しい計算を考えよう』【A 数と計算】

### 2 指導の立場 (1) 教材観

児童は、第1学年の「2とびの数」「5とびの数」等の学習を通して、乗法の基礎的な経験をしている。しかし、「1つ分の大きさのいくつ分」という乗法の意味をとらえているわけではない。本単元では、乗法が用いられる実際の場面を通して、乗法の意味を理解していく。身の回りには、同じ個数のものの集まりが多くある。これらの数を知りたいとき、乗法を活用することで、その数を簡単に知ることができる。靴箱の数や、教室の絵画の枚数等、長方形のように配列されたものの数は数えることによってではなく乗法で求めることができる。という乗法のよさを味わわせ、日常生活で生かそうとする態度を養うことが大切である。

### (2) 児童観

### (3) 指導観

前時の学習内容の把握と本時を通して、日常の場面へ活用できるように、身の回りから乗法が用いられる場を探して立式する活動を仕組む。規則正しく並んでいると、乗法の立式がしやすくなることに気付かせるために、「1つ分の大きさ」や「いくつ分」に着目して図に表しながら指導する。

## 3 本時の展開 (4/16)

	学習内容および学習活動	指導・援助 (大高め合うための指導・援助)
つかむ	<p>1 前時の内容を振り返る。                      ○前回はどのような式の計算を勉強してきたのか。                      ・かけ算 ・かけ算の答えをたし算の式で計算した。</p> <p>2 本時の内容をつかむ。                      この絵の中から、かけ算の式になるものを見つけよう。                      ・<math>2 \times 3</math>です。                      ・2つのまとまりが3つあるから<math>2 \times 3</math>です。                      ・横に2つつ3列分あるから<math>2 \times 3</math>です。</p> <p>3 本時の学習課題を把握し、見通しをもつ。                      かけざんのしきになるものをさがして、しきを書こう。</p>	<p>&lt;3つの見届けるー実態を見届ける&gt;</p> <p>★教科書P119の机の絵を黒板に貼り、本時の内容が視覚的にも理解しやすいようにする。</p> <p>・ここでは、<math>2 \times 3</math>と<math>3 \times 2</math>の2通りの方法が出なくてもよい。1つ分といくつ分を把握する。</p> <p>★机の問題が終わったら、教科書P119の絵を提示して問題を把握する。それぞれの絵を見て、かけ算の式で表されそうだなという意識をもたせてから課題化する。</p>
深める	<p>4 個人追究をする。                      ○教科書P119の問題を自分のやりたい問題からどんどん解いていく。                      ・ペン パターン①                      ペンは、縦に3本ずつ5列分あるので<math>3 \times 5</math>になります。                      ・ペン パターン②                      ペンは、横に5本ずつ3列分あるので<math>5 \times 3</math>になります。                      ・トマトは、1パックに5個ずつ5パックあるので<math>5 \times 5</math>になります。</p> <p>5 全体交流をする。                      ○答え合わせをする。                      ○つくえやペンの場面のような、1つ分の見方によって、別の式になるものは、2つとも取り上げて、どちらも正しいことを確認する。</p> <p>6 3人交流をする。(評価問題)                      ○教科書の類題を新しく出題する。                      ○自分たちの立式を図と関連付けながら説明する。                      ○終わったら、全体で答えを確認する。</p>	<p>&lt;3つの見届けるー学習状況を見届ける&gt;</p> <p>・個人追究の際に、どのように立式すればよいか分からない児童に対して、図を使って、まとまりをつくらせて「1つ分の大きさ」とそれが「いくつ分」あるのかを確認する。</p> <p>・すべて終わって時間が余った児童に対して、同じ場面でも、別の考え方がないか問いかけ、違ったまとまりでも式がつけられることに気付かせるようにする。</p> <p>★3人交流について</p> <p>・3人交流では、立式の根拠についてそれぞれの問題を交流する。その際に、「<math>2 \times 3</math>です」のように式を言うだけで終わらずに、                      ①図を使って書き込みながら説明をする。                      ②説明するときに「○のまとまりが○つあるので、<math>\text{○} \times \text{○}</math>です」というように、根拠を明確にして行う。                      の2点を意識できるように3人交流を位置付ける。</p> <p>・他の仲間の説明を聞いて分からないところは質問をしたり、同じ問題について異なる見方で解いたらそれを交流したりする。</p> <p>・交流の際には、図に書き込むことができるように、大きめの教科書のコピーを用意しておく。</p>
まとめる	<p>7 学習のまとめをする。                      1つ分の大きさや、いくつ分あるかに着目すると、身の回りにはかけ算で表されるものがある。</p> <p>8 練習問題をする。                      ○身の回りのもので、かけ算の式にすることができそうなものがないか探し、式を書く。                      ・下駄箱 ・ロッカー ・背面掲示 ・窓</p> <p>9 本時の振り返りをする。                      ○できるようになったことなどを、ノートまたはカードに記入する。その後、2人程度発表する。</p>	<p>・かけ算を立式する際には、「1つ分の大きさ」とそれが「いくつ分」あるのかをはっきりさせなければならないことを確認してまとめを行う。</p> <p>&lt;3つの見届けるー定着状況を見届ける&gt;</p> <p>・別の場面の問題を出題し、同じ数のまとまりを図に書き込みながら立式できているかを見届ける。</p> <p>★本時分かったことや、仲間との関わりの中で良かったことなどを振り返りカードに記入する。</p>

## 4 研究内容との関わり

### 【研究内容Ⅰ】

#### ②導入・課題化の工夫

導入で机の数をかけ算の式で表すことを全体で考えることで、活動の流れをつかませる。その際、絵を黒板に貼ることや、「1つ分」「いくつ分」「ぜんぶの数」のカードを提示することで、本時意識すべきところをいつでも確認できるようにする。また、それらの項目について動作化することで思考の支援となるようにする。

### 【研究内容Ⅱ】

#### ①関わりへの必然性を生むための工夫

#### ②関わり方の指導

3人交流では、話し手、聞き手、自分以外の2人の会話を聞く立場等、様々な役割をもたせられる最少の人数であり個の活動量が確保されることから、高め合いに有効であると考えている。ここでは、全体交流の後に、新しく問題を出題する。全体交流で仲間の意見を聞いて理解したことを、更に確かにするために、立式の根拠を全員が説明できるようにする。また、話し手はまず、結論の式だけを話し、その後に関わり手が根拠を問いつける形式にすることで、関わりへの必然性をもたせるようにする。

### 【研究内容Ⅲ】

#### ①評価の工夫 (自己評価力の育成)

本時の課題の達成状況を本時の類題を行い、把握できるようにする。自分がこの一時間の授業で、何ができるようになったのかや、どのように仲間と関わり合ったのか、その関わり合いを通して何ができるようになったのかを明らかにする。また、3人交流の振り返りを行うことで、交流を通して何が理解できたのかを把握できるようにする。